特集「再考 分散システム/インターネットの運用・管理」の編集にあたって

山 井 成 良†

インターネットは，情報流通のインフラストラクチャとして社会に定着してきており，その上に構築される分散システムも映像・音声を含めたマルチメディア情報配信サービスや電子商取引の普及など，大規模化，複雑化の一途をたどってきている．また，その利用者の所属も従来の大学や企業だけではなく，官公庁や小中高校，さらには一般家庭へと裾野が広がってきている．このように分散システムは，一般の社会生活に深く関わってきており，インフラストラクチャであるインターネットを含めた分散システムの安全かつ安定的な運用・管理は今後の情報化社会を支える上でますますその重要性を増してきている．

上記のような分散システムの安全かつ安定的な運用・管理は従来より最も重要な項目の1つとして認識されており，本会においても分散システム/インターネット運用技術（DSM）研究会を中心に多くの研究が発表されている．しかし，特に最近ではVPNなどによるアクセス手段の多様化，VoIPなど新しいサービスの普及，あるいはフィッシング（phishing）メールの横行など新たな手口の出現などにより，課題となる対象範囲が拡大している．また，ネットワークのブロードバンド化や家庭における常時接続環境の普及により，被害の影響度も増大している．このような状況を鑑みると，分散システム/インターネットの運用・管理を安全かつ安定的に行うには，これまで発表された研究だけでは十分とはいえず，見直しを迫られている時期にあるといえよう．

そうした状況の中，本特集は，分散システム/インターネットの運用・管理において，上記のような現状に即した新たな研究成果を掘り起こし，本分野の研究の推進と発展に寄与することを目的として企画された．

最終的に，本特集ではこれまでにDSM研究会が企画した特集の中では最も多い37編の論文が投稿された．これらの投稿論文を24名からなる特集号編集委員会により，通常の論文査読と同じメタレビュア方式で査読を行った．その結果，最終的に17編の論文を採録することとなった．採択率としては46%となり，予想を若干下回る結果となった．査読の経過を振り返ってみると，新規性や有用性は認められるものの，構成や議論の進め方に問題があるために不採録となった論文が多かった．特に，第1回判定で条件付採録になりながら，第2回判定で不採録となった論文が5編もあったのは残念である．また，採録された論文でも，構成や議論の進め方に関して多数の採録の条件やコメントが付されたものが多く見受けられた．残念ながら，これは例年どおりの傾向であり，投稿者には十分な推敲を希望するとともに，DSM研究会としても何らかの対策を検討する必要があるのではないかと思われる．

最後に本特集をゲストエディタ制により企画する機会をいただいた論文誌編集委員会と優れた論文を投稿していただいた著者の方々に感謝したい．また，ご多忙の中，多数の論文を短時間で査読していただいた査読者各位，ならびに多くの作業にご協力いただいた学会事務局に感謝する．

「再考 分散システム/インターネットの運用・管理」特集号編集委員会

- 編集長
  山井成良（岡山大）
- 編集委員（五十音順）
  石橋勇人（大阪市立大），一井信吾（東京大），今泉貴史（千葉大），上原哲太郎（京都大），菊池 豊（高知工科大），齊藤明紀（鳥取環境大），齊藤栴朗（会津大），土屋 哲（富士通研究所），中村 眞（シャープ），萩原洋一（東京農工大），長谷川明生（中京大），箱崎勝也（電通大），樋地正浩（日立東日本ソリューションズ），藤崎智宏（日本電信電話），藤村直美（九州大），前田香織（広島市立大），牧野 晋（麗澤大），桝田秀夫（京都工芸繊維大），松浦敏雄（大阪市立大），宮地利雄（日本電気），山之上卓（鹿児島大），吉田和幸（大分大），渡辺健次（佐賀大）

† 岡山大学総合情報基盤センター